

愛知の離島 (トピックス)



2024年2月



目次

■トピックス編

1	佐久島	1
2	日間賀島	8
3	篠島	11
4	愛知県の実組	16

1 佐久島

祭りとアートに出会う島「三河・佐久島アートプラン 21」

2001年度から地域（島民）とアートとの協働（コラボレーション）によりスタートした島おこしプロジェクト。

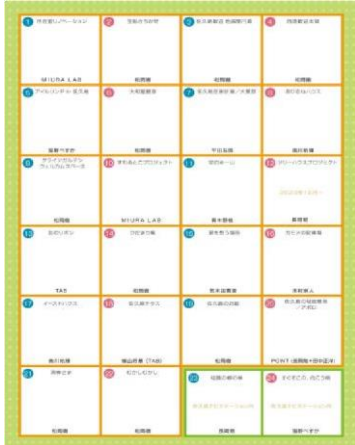
島の祭りを基軸として、アートのイベントや展覧会等を開催しながらさまざまな出会いの場を創出していく。日本の原風景、食文化、伝統や風習など佐久島にある固有の資源に対して、アートが作家のインスピレーションによって非日常性を表現することによって、訪れる人に驚きや発見という『佐久島体験』として提供している。

また、別の切り口から地域資源である「自然」を活かした自然観察会の開催など行い、島の自然について情報発信も行っている。

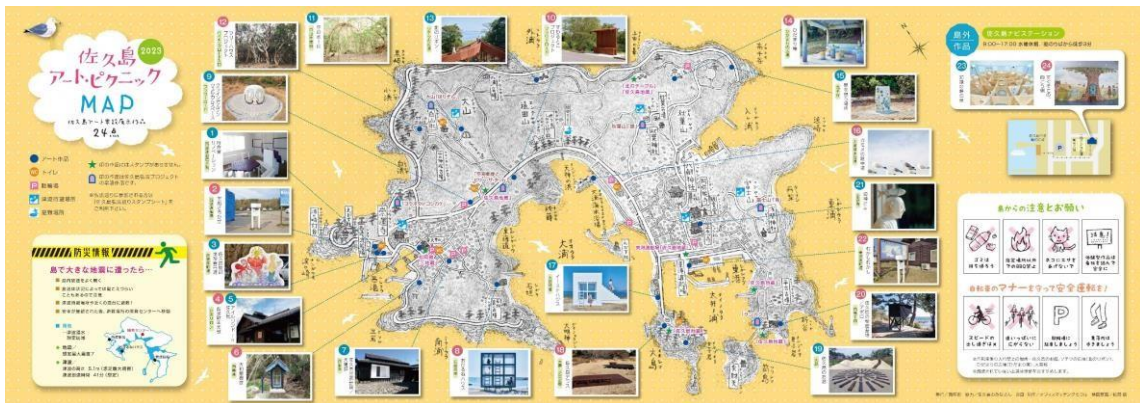
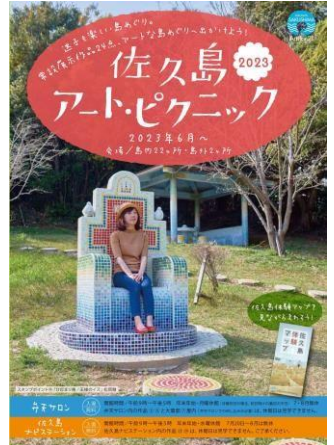
◇いつでもアートな島巡り「佐久島アート・ピクニック 2023」

アーティストが島で制作した常設展示作品を鑑賞しながら、気軽に参加できるスタンプラリー「佐久島アート・ピクニック」は2005年度からスタートしてこれが18回目となる。

体験したい人は、一色港及び島内東西の渡船場か弁天サロンなどで無料配布のスタンプシート（作品鑑賞の手引き付き）を手に、各ポイントにちなんだデザインのスタンプを集めてシートを埋めていく。海沿い、森の中、黒壁集落内などに設置されたスタンプボックスを目印に、24ヶ所（島内22・島外2）のアート作品を鑑賞しながら、佐久島の魅力的な風景も同時に堪能できるルートとなっている。道中で出会う島の人との会話も風景もノスタルジックな世界へと引き込む。



大人から子どもまで大人気のアート・ピクニックのスタンプシート。アートな島巡りに出かけましょう！



◇佐久島八十八ヶ所弘法を巡る「弘法巡りスタンプラリー」

前述のアート・ピクニックとは異なるルートで新たな佐久島の魅力を観光客に提供すること、並びに、島民に守られてきたが過疎・高齢化などにより失われつつあった伝統文化である佐久島弘法をアートと建築の力を借りてよみがえらせる試み「佐久島弘法プロジェクト」は、2009年度のスタートから3年間をかけて整備し、弘法八十八ヶ所巡りを完全復活させた。

スタンプポイントは19ヶ所あり、昔から存在するレンガ造りの祠や、アーティスト、県内の大学で建築を学ぶ学生が制作した祠まで様々な佐久島弘法を楽しむことができる。

また、アート・ピクニックとは異なり、佐久島の山を中心に自然と歴史を満喫できるコースとなっている。量的にもアート・ピクニックと同程度の作品を提供できることで、観光客にとって佐久島での過ごし方の選択肢が増えた。



今年で107年目を迎えた佐久島弘法。

その八十八ヶ所の佐久島弘法を巡るスタンプシート。黒壁の集落、自然に富んだ山道、潮風が吹く海辺に行く佐久島遍路！

◇夜空に星を探るように、地図にない作品を巡る「昼間の星」

前述の「スタンプラリー」などの島で配布しているマップには、常設展示作品の場所が記してあり、作品の傍らにはタイトルや作家名等を記した看板を目指して慌ただしく人々が行き交う光景は既に佐久島の日常の風景となった。そこでその慌ただしい流れに少しだけ背を向け、作品の正確な位置を記した地図も看板も記念のスタンプもない、じっくりと迷いながらゆっくりと島歩きの楽しさを再発見してもらうために2019年に「昼間の星」巡りがスタートした。

本作品は、2017年に設置された「星を思う場所」のアーティストである荒木由香里氏が手掛け、東地区に4点、西地区に4点設置されている。そこにたどり着くための手掛かりは、『昼間の星巡りガイド』を参照するのみとなっており、海辺を歩き、森を抜け、黒壁集落で彷徨いながら、アーティストが見つけた特別な場所を、島の自然や暮らしの営みを織り上げたような作品を、垣間見る事ができる。



作品の1つ「星屑のテーブルクロス」

8つの作品のいくつかは、とても小さな作品の展示となります。目印がないので、見逃してしまうかもしれません。のんびりと歩いて星巡りを楽しんでくださいね！

◇アート&イベント

「ふたつのおひるねハウス 2023」他

建築家南川祐輝の設計による「おひるねハウス」が完成してから、今年で19年。前回の建て替えから10年、傷みの激しい「おひるねハウス」が再建されることになり、半年間、特別な2つのおひるねハウスが並ぶ特別な風景の展覧会を開催した。



特別な「おひるねハウス」2つ並ぶ姿は10年ぶり。期間限定展示。

◇島を元気にする人々の活動

島を美しくつくる会



「三河湾の黒真珠」景観修復（黒壁運動）

「島を美しくつくる会」は、島民の自主的かつ創意あふれる活動を通して、自然、風土、歴史、産業といった佐久島固有の資源を発掘・研磨し、島の活性化を推進することを目的に設立。島外の人々とも協働しながら活動を推進し、関係人口に係る交流活動のサポートも担っている。

ア 藻場の再生活動

2002年からスタートした、アマモを増やして藻場を再生する活動は、「魚やアサリがいっぱい捕れるよう、佐久島の海をもっと豊かにしたい」という、島の1人の中学生の願いが、島民や佐久島しおさい学校の児童・生徒、島外ボランティアに広がり現在まで活動を行っている。「島を美しくつくる会」「西三河漁協協同組合佐久島支所」が協力し、今年で22年目となる。

また、この活動に賛同し、人材面、資金面などを日本郵船株式会社より協力を得ている。



アマモ場



説明を受けた後、アマモを採取し、採取したアマモと砂を入れて麻ポットを作る作業。



麻ポットをアマモの少ない場所へ移植する作業。

イ 佐久島太鼓フェスティバル

佐久島太鼓保存会を含む合計 6 チームによる和太鼓演奏の競演イベント「佐久島太鼓フェスティバル」は、島を美しくつくる会のいにしえ分科会が中心に開催。

2009 年に初開催。途中コロナ禍により中止もあったが、今回 13 回目となり、秋の恒例イベントとして定着している。



ウ 歩け歩け海原三里

2001 年度から「佐久島歩け歩け海原三里」がスタートし、毎年多くの参加者が集う一大イベントに定着している。島をウォーキングする以外にもワークショップ等が行われ、参加者各々のオリジナルの品を製作できるよう島を楽しんで巡れるように企画されている。



◇佐久島クラインガルテン



2012年4月に、離島では全国で初めてとなるクラインガルテンが整備された。クラインガルテンとはドイツ語で「小さな庭」という意味であるが、我が国では「宿泊滞在型農業体験施設」として親しまれている。

佐久島クラインガルテンは約70㎡の菜園付きラウベ（宿泊施設）が10棟並んでおり、利用者は休日等を利用して自分の畑で野菜づくりを楽しんでいる。

また、全棟にインターネット光回線を整備し、2021年よりラウベを個人向け以外に法人向けにも貸出利用を開始し、「仕事」と「休暇」が両立可能なワーケーションなどで活用し、リフレッシュ、生産性が高まるような島時間の提供を行っている。

◇地域おこし協力隊



人口減少に歯止めがかからず、高齢化率も高く、町内の維持活動が困難になりつつある佐久島に、農業漁業の応援、観光のPR活動、自然環境の維持、島民の生活支援などの各種地域協力をしながら、定住に繋げていく活動を行う。地域おこし協力隊の任用は、2021年7月から開始した。コロナ禍により観光面でのサポートは難しかったが、特産品開発などを手掛け、地域とのつながりも良好で今後もこの制度の活用を図っていく。

2023年度任用隊員数・・・3名

◇佐久島しおさい学校・しおかぜ通学

佐久島しおさい学校（義務教育学校）では、豊かな自然環境の中で、人と触れ合いながら勉強できる点を大きな特色としており、一人ひとりに合った指導が可能。のびのびと学び、遊び、大きく育つことを目標に、義務教育9年間を過ごす。

また、島民の理解と支援のもと、2003年度から小規模特認校制度「しおかぜ通学」として、島外から児童・生徒を受け入れている。

◇グリーンスローモビリティ実証実験走行

高齢化が進む島内の移動やレンタル自転車利用のオーバーツーリズムの問題を解決するためグリーンスローモビリティの実証実験走行を実施した。移動手段に車や原動機付自転車を利用していない島民には好評を得た。また、観光客向けに観光案内付きでの走行実験を行い遠出が出来てよかった。案内があつて島への関心が高まったなどの声を頂いた。



2 日間賀島

ア 漁業体験プログラム（期間4月～10月）

漁村での生活を通して自然に触れ、漁師がインストラクターになって本格的な漁業体験をするもので、観光協会、漁業協同組合、漁業者（漁師）が一丸となって取り組むなど、若い世代を中心として交流人口の拡大に努めている。

「ようこそ日間賀島、自然体験ワールドへ」と題し、タコのつかみどり、キス網漁、干物づくり、漁船クルージングなどのプログラムがある。

イ 海と空の自然学校

小学生を対象にゴールデンウィーク期間中に行われるメニューである。

シェルアート、トランポリン、ハンドクラフトなどのほか、ビーチファイヤーといった夜間メニューもある。



トランポリン



ちびっこゲームランド

ウ キッズアドベンチャー

小学生を対象に夏休み期間中に行なわれるメニューである。ちびっこゲームランド、シュノーケリング、クラブフィッシング、シーカヤック、ミニサーフスクール、ハンドクラフトなどのほか、ビーチファイヤーといった夜間メニューもある。



ビーチファイヤー



シーカヤック

エ 健康料理

漁師から始まった民宿や旅館では、伊勢湾、三河湾の多彩な魚介類を使って、どう料理をすれば美味しいのか、何が体に良いのかを知り尽くした漁師ならではの料理が受け継がれている。低コレステロールで、血液を浄化し、肝機能を高める働きもあるといわれるタコのように、魚介類は、もともと低カロリーでミネラルが豊富であり、魚介類をふんだんに使いながらも1人前 800kcal に抑えたコース料理などの開発が行われている。



オ 人とイルカとのふれあい事業

イルカとの触れ合いを通して自閉症児らの生活支援を目指すもので、2006年度より実施されており、2007年度には、一般の人に向けてのメンタルヘルス（心の健康）を増進するプログラムも実施された。自然の海を使った珍しい取り組みで、専門家の間では日間賀島の自然の中で集中的に取り組むことにより、効果の向上や受け入れ人数を増やすことができると期待されている。



イルカとの触れ合い



西海水浴場清掃活動

カ ひまかドルフィンキッズ

子供たちがイルカのお世話のお手伝いや島内の清掃活動を通し、コミュニケーションの大切さ、自然を大事にする気持ちを養うことを目的とした活動をしている。

また、日間賀島のビーチで、イルカの生態や飼育方法などの見学プログラムもある。

◇日間賀島ちびっこひろば

母親の子育てに関する不安を少しでも解消することを目的とし、2009年9月に子育て支援センター「ちびっこひろば」を開設した。この「ちびっこひろば」は無償で利用することができ、母親同士のコミュニケーションの場となっている。

夏休みの繁忙期に勉強、宿題の面倒を見てあげられない母親の負担軽減の為、日間賀「kids station」が2021年に実施された。



ちびっこひろば

◇恋人ブランコ

日間賀島東港近くの高台にあるブランコで、高さ7メートルほどのクロマツの枝にぶらさげられている。ちょうど大人二人が寄り添って腰掛けられる幅のため、「恋人ブランコ」とも呼ばれる。

設置されたのは30年ほど前で、子ども向けの自然体験旅行の企画に合わせて作られた。テレビや雑誌に取り上げられる他、近年はSNS（ソーシャルネットワーキングサービス）を通じての人気も広がっており、島を代表する名所となっている。



恋人ブランコ

◇「ぐるりーバス」の運行

日間賀島は交通事業者の参入がないため、2002年頃から観光協会が夏場の繁忙期限定で無償のバスを運行していた。しかし、経費の増加や車両をリースしていたバス会社の車両整理により、2017年を最後に運行ができなくなった。夏期に多くの観光客が訪れる日間賀島にとって、交通利便性の低下は影響が大きいものである。

日間賀島においては、2019年度に国家戦略特区制度を活用し島内で「ぐるりーバス」が運行された。自家用車での有償旅客運送が可能となったことで多くの観光客に利用され、利便性の向上につながった。

運行主体は日間賀島観光協会、西港を起点として島内を循環する4.6キロメートルの路線である。1日13便、小学生以上1乗車100円で、観光客等1万人以上の利用があった。観光協会の費用負担が軽減されたことにより、持続可能な制度となり、日間賀島の観光サービス水準の向上につながっている。



ぐるりーバス

3 篠島

◇「島弘法」巡り

篠島は古くから歴史の島として知られ、今も数多くの史跡、名勝が残っている。漁業が盛んな島であるが、明治の終わりごろ島の漁船に海難事故が相次ぎ、中には命を落とした人もいた。そこで遺族を中心とする島民の有志が集まり、犠牲者の霊を慰め、海上の安全と大漁を願って島内の海を見渡せる道沿いに八十八体の弘法様をつくったのが「山弘法」の始まりとされている。

以来いつからか春の弘法命日の日には、島民がこぞってお弁当を持ち弘法巡りをするようになり、この日は学校なども休みとなって島民の手軽な春の行楽として定着していたが、1960年代の経済成長期に入ると次第に「山弘法参り」をする人も少なくなっていった。

そんな中、2005年度より若手の町観光協会篠島支部会員のなかで「山弘法をもう一度見直してみてはどうか」との声が広がり、昨年、支部で事業化が承認され広報宣伝部の若手を中心におかみ会なども加わって取り組みが始められた。

今回の復旧事業で「山弘法」の風習をもう一度見直し再整備することで、名称を「島弘法」と変えて新しい観光資源とし、また、海の見えるコースを歩いて回るということで、来島客だけでなく島民にも篠島の景観の美しさを感じてもらい、健康づくりにも役立ててもらえるもの、さらには、島民に島の文化を再認識してもらおうきっかけになりうるものと期待されている。

今後は「島弘法」の中心コースとなる棚橋～牛取～赤石地区をはじめとする島内全域の環境美化・整備などをすすめていくことで、子供たちにも島を愛する心の育成・郷土の誇りと感じてもらえるよう、また、「島弘法」が島の「宝」、「光」となるよう活動の輪を広げていくことが計画されている。



弘法様（第9番）



幟旗と祠が整備された島弘法



弘法様の命日に行われたPR活動
(あさり汁等の振る舞い)

◇篠島小学校の郷土学習

篠島小学校では、郷土を誇りに思う気持ちを育もう、自分たちで島のためにできることをしようと、児童が継続的な浜の清掃活動(篠島ウミガメ隊)、郷土料理実習、観光案内資料づくりなどに取り組んでいる。

2011年夏、ウミガメが前浜(観光客で賑わう海水浴場)に産卵したことを契機に、「ウミガメが産卵に来る美しい浜を目指して」の合い言葉の下、全校児童参加による「篠島ウミガメ隊」が組織された。

毎年、年度当初に結団式を行い、ウミガメの産卵期となる夏までは、毎週水曜日の登校時に前浜の清掃活動を行っている。夏季休業中も自主参加で、また、2学期以降も月1回のペースで活動を継続している。

郷土料理実習は、6年生が11月に「郷土料理を学ぶ会」と称してトラフグを使った実習を行っている。これは、地域素材の種類や生態、漁法を学び、それらの調理実習を通して郷土理解を深めることを目的にしている。島内のホテルを会場にフグ調理資格をもつ調理師の方からトラフグのさばき方や毒のある部位などを学んだ後、学校へ戻ってフグしゃぶ、フグ鍋、雑炊づくりに挑戦し、「郷土の味」を堪能している。

観光案内資料づくりは、主に総合的な学習の時間を活用して高学年が取り組んでいる。6年生では、島内の史跡や名所を調べ、観光客に向けて手作りリーフレットを作成し、篠島の魅力について情報発信している。また、5年生では、観光客が「清正の枕石」へ迷わず訪ねることができるよう手づくり観光案内板を作成し、ルート各所に設置している。



篠島ウミガメ隊の活動



郷土料理を学ぶ会



「枕石」への観光案内板

◇観光ガイド

2008年7月に宿のおかみなどが中心となり、観光客と一緒にウォーキングしながら島の名所を案内する観光ガイド（有償）が発足した。初級（90分コース）と上級（180分コース）の2コースがあり、篠島の歴史や自然の話をして観光客に篠島の魅力を広く伝えている。



観光パンフレット

◇特産宣伝キャラクター「しらっぴー」

篠島産しらすのブランド化を目指し、2008年に水産物加工業協同組合が中心となって、しらす日本一をPRするしらすマスコットキャラクター「しらっぴー」が作成された。その後、2010年度に着ぐるみやのぼり旗も作成され島内外の祭事イベントに参加し、愛くるしい姿でお祭りを盛り上げている。観光イベントにおいては「しらす」と「篠島」のPR活動を行っている。



「しらっぴー」の着ぐるみとのぼり旗



矢穴石

◇名古屋城築城の史跡

篠島は約400年前に加藤清正が名古屋城築城の際に石を求めた場所である。近年の調査で石を割る時に掘られた矢穴の残った残石「矢穴石」が37箇所341個確認されている。

しかし、残石の多くは海岸線に存在し、見学には安全上問題があった。そのため、より多くの観光客の方々に安全に見学ができるように、渡船施設前の広場に矢穴の残った残石と案内看板を展示した。島内部にある採石地跡には工事用足場で見学路を確保し安全に見学することができる。

また、2012年度には篠島に残されていた8トン余りの矢穴石が名古屋城に寄贈された。今後は歴史文化や観光の面で交流が期待されている。



案内看板



名古屋城に寄贈された矢穴石

◇篠島の祭礼 MAP 作成

篠島は近世以前に志摩国や伊勢国（三重県）に属していた歴史があり、伊勢神宮と深い繋がりがあある。伊勢と関係があり、古い伝統をもつ1月の正月祭礼・大名行列や10月のおんべ鯛奉納祭に、7月の祇園祭・野島祭を加えた三つの祭礼を中心に、神々に愛される歴史豊かな篠島を発信するために篠島祭礼 MAP が作成された。



篠島祭礼 MAP（表紙）

◇篠島と伊勢神宮



神明神社



おんべ鯛奉納祭

篠島と伊勢神宮とは、千年以上の昔から深いかかわりがある。

篠島から「おんべ鯛」と呼ばれる塩漬けにした干鯛を毎年、伊勢神宮に奉納してきた。おんべ鯛の奉納は6、10、12月の3回に分けて行われるが、特に10月には、「おんべ鯛奉納祭」を開催し、篠島漁港で盛大にイベントが行われ、唐櫃に入った鯛が島民の大きな歓声を受けて伊勢神宮へと船で送り出されている。

また、伊勢神宮では20年ごとに式年遷宮が行われているが、この時に生じる古材は、篠島へと運ばれ島内の神明神社、八王子社として20年毎に蘇る。

2013年に伊勢神宮の式年遷宮が行われており、その2年後の2015年に両神社の造営が行われた。

◇恋人の聖地「太一岬 キラキラ展望台」

2017年4月、篠島の南端にある「太一岬 キラキラ展望台」が、知多半島で初めて「恋人の聖地」に認定された。「恋人の聖地」は、NPO法人地域活性化支援センターが、プロポーズにふさわしいロマンチックな観光地に対して認定している。展望台の入口には伊勢神宮の古材で作られた鳥居が立っている。鳥居は伊勢神宮の方向を向いており、展望台を登れば渥美半島から伊勢湾までを一望できる。

また、展望台には愛の鐘が建てられ、そこから北へ600メートルほど離れた海水浴場前にも、サテライトスポットとしてモニュメントが建てられた。訪れた人が鐘を鳴らしたり、カギをかけられるようになっており、島の新しい観光スポットとしてPRされている。



展望台入口の鳥居



モニュメント

4 愛知県の実施

【2016年度～2018年度】「あいちの離島及び周辺地域情報発信等事業」

- ◇ 国の「地方創生推進交付金」を活用し、離島及びその周辺地域の活性化を目指し、新たな観光客の誘客等により交流人口を増加させるため、効果的・効率的な情報発信等事業を実施。

(1) テレビ・情報誌等を活用したPR事業

3島それぞれの魅力をTV等で発信するとともに、メディア等を対象にゲートウェイから島に至る一連の魅力を伝えるプレスツアーを催行。

(2) イベント出展等による対面PR

県内外の集客力の高いイベントに出展等し、離島の魅力を対面でPR。

(3) 地域の魅力調査・向上事業

2015年度に策定した「あいちの離島ビジョン」をもとに、2016年度に各島で実施したブランディング会議で検討した取組をさらに推進するとともに、メディアや旅行会社等の方を招いた3島合同発表会の開催、名古屋市内でピピッと！あいち及び伏見地下街とコラボしたキャンペーンを実施し、PRを行った。

【2019年度】「あいちの離島関係人口創出事業」

- ◇ 国の「地方創生推進交付金」を活用し、離島の活性化を目指し、新たな観光客の誘客等を図るため、効果的・効率的な情報発信を実施するとともに、島のファン、サポーターとなり、島の活性化に寄与してくれる関係人口の創出に向けた取組を実施。

(1) 関係人口創出業務

関係人口の創出に向け、島内の理解促進を図り受入環境を整えるとともに、関係人口の掘り起こしを実施。

- ・関係人口に関する島内の理解促進を図るための島内勉強会の開催
- ・関係人口の掘り起こしを図るための島外勉強会の開催
- ・関係人口キックオフイベントの開催
- ・啓発資料の作成



(2) テレビ・情報誌・SNS等によるPR業務

メディアやSNSを活用し、島の暮らし等これまでとは違う視点からの情報発信を実施。

- ・テレビ、情報誌、SNS (Facebook、Instagram) 等を活用したPR
- ・Instagramを活用したフォトコンテストの開催 等

(3) イベント出展等による対面PR業務

島の認知度を高め、関係人口の創出に効果的なイベントに出展し、離島の魅力をPR。

- ・あいちの住みやすさPR懇談会 (東京)
- ・アイランダー2019 (東京)
- ・地域の魅力発見フェア (名古屋) 等



【2020 年度】「あいちの離島関係人口創出事業」

- ◇ 国の「地方創生推進交付金」を活用し、離島の活性化を目指し、関係人口を取り込むため、効果的・効率的な情報発信を実施するとともに、島のファン、サポーターとなってくれる関係人口を積極的に取り込むための取組を実施。

(1) 関係人口創出業務

各島の課題解決に向けた関係人口の取り込みを図る取組を実施。

- ・関係人口に係る取組支援
- ・島外者による魅力掘り起し
- ・インフルエンサーと連携した関係人口の取り込み
- ・小中学生向けパンフレット作成

(2) 情報誌・SNS等によるPR業務

メディアを活用した情報発信を行うとともに、地域の情報発信力の強化を図るため、情報発信の担い手を増やすための取組を実施。

- ・情報誌掲載
- ・SNSを活用した情報発信セミナー開催
- ・その他メディアを活用した情報発信 等



(3) イベント活用による対面PR業務

島の認知度を高め、関係人口の創出に効果的なイベントに出展しPRを実施。

- ・アイランダー出展
- ・県内外イベントPR

【2021 年度】「あいちの離島関係人口創出事業」

- ◇ 国の「地方創生推進交付金」を活用し、これまで実施した取組を持続可能なものとするため、島民が主体となって行う取組の支援や、取組体制の構築を実施。

(1) 関係人口創出業務

昨年度までに検討した内容を元に、各島の課題解決に向けた関係人口を得るための持続可能な取組体制の構築を実施。

- ・島内環境整備の支援
- ・島外人材の活用と交流及び島外者の地域課題に向けた活用
- ・パンフレット等啓発資材の作成

(2) 情報誌・SNS等によるPR業務

SNS等を活用した効果的・効率的な情報発信を実施。また、地域の情報発信力の強化を図るため、情報発信の担い手を増やすための取組を実施。

- ・情報誌等への掲載
- ・島内によるSNS活用の効果検証と磨き上げ
- ・アイランダー出展
- ・その他メディアを活用した情報発信 等



【2022 年度】「あいちの離島関係人口持続化・深化事業」

- ◇ 国の「地方創生推進交付金」を活用し、2021 年度までの事業で培ったノウハウを生かし、島に関心を持ち、深く関わり続けてもらえる島外人材と連携した取組など、関係人口を持続化・深化するための取組を実施。

(1) 関係人口と地域の協働・連携のあり方検討業務

2021 年度事業で試行実施した「あいちの離島サポートデスク」（愛知三島に関心を持つ外部人材と島をつなぐ調整窓口）の本格実施を目指し、各島の関係人口の持続化・深化のための仕組みづくりの内容検討を実施。

- ・あいちの離島サポートデスク運営
- ・企業連携に向けたアンケート実施
- ・各島で企業連携により地域課題の解決に向けた取組を実施

(2) イベント等出展によるPR業務

各島の魅力や関係人口づくりに関する取組をPRし、各島により深い関心を持つ関係人口の創出を図る。

- ・SDGs AICHI EXPO 出展
- ・アイランダー出展



(3) SNS等による情報発信業務

各島の実施する取組や魅力についてSNS等の活用により、効率的に情報発信を行う。

- ・Facebook、Instagram を活用した情報発信の実施
- ・ビックデータやインターネット調査を活用し、効果的な情報発信手法を検討

【2023 年度】「あいちの離島関係人口持続化・深化事業」

- ◇ 国の「デジタル田園都市国家構想交付金」を活用し、島に関心を持ち、深く関わり続けてもらえる島外人材と連携した取組など、関係人口を持続化・深化するための取組を実施。

(1) 関係人口と連携した地域課題解決業務

過年度事業で検討した地域課題等の解決に向けた連携の方向性を踏まえ、外部人材と地域の協働・連携に向けた取組を実施。

- ・各島と外部人材とのマッチング
- ・外部人材を活用した地域課題解決の取組支援

(2) イベント活用によるPR業務

イベントを活用して、あいちの離島の認知度向上や地域課題解決に向けた取組をPR

- ・SDGs AICHI EXPO 出展
- ・「あいちの離島の魅力発見！魚屋の森さんスペシャルトークショー」の開催



(3) SNS等による情報発信業務

あいちの離島の認知度向上や外部人材の発掘を図るため、SNS等を活用した効果的な情報発信を実施。

- ・Facebook、Instagram を活用した情報発信の実施

【2017年度～2019年度】「あいちの離島戦略産品開発事業」

◇ 国の「離島活性化交付金」を活用し、産業に活力のある元気な島を目指して、観光及び産業の活性化を図るべく、各島の特徴を活かした戦略産品開発事業を実施。

(1) 戦略産品開発事業

各島地域住民が主体となり、島の資源や魅力の洗い出しを行いながら、専門家の助言のもと、産品開発を実施

2017年度：試作品の完成。

2018年度：商品の磨き上げを行い、販売できる状態まで高める取組を実施。

2019年度：商品の消費拡大、販路開拓を図る取組を実施。

【開発した戦略産品】

- 佐久島：「サクのいも」（佐久島のサツマイモを使ったメニューの開発）
- 日間賀島：「日間賀 海ソース」（白ミル貝、タコ、シラスをオリーブオイルとあわせたソース）
- 篠島：「篠島 鯛のじゅうじゅうみそ焼」（鯛をあつあつの味噌で煮込む「じゅうじゅうみそ*」で味わうもの）
*じゅうじゅうみそ：魚介類をあつあつの味噌で煮込む篠島の郷土料理



△佐久島



△日間賀島



△篠島



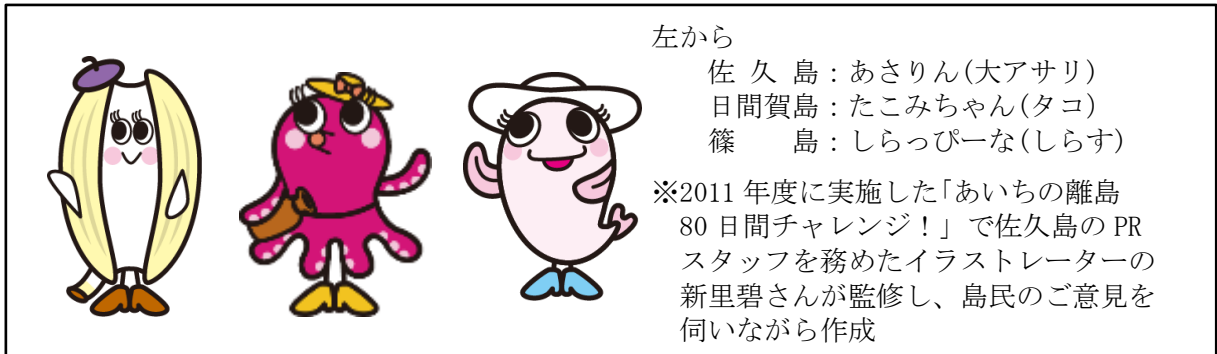
(2) 戦略産品PR事業

2017年度：「3島合同発表会」での発表、イベントでの試食によるPR。

2018年度：知事表敬により開発品を報告、ピピッと！あいち、伏見地下街とコラボしたキャンペーンの展開、商品のテスト販売を実施。

2019年度：メディアの活用、イベント出展によるPR、啓発資材の作成・配布等を実施。

★あいちの離島のPRイベント等に登場する3島のマスコットキャラクター



＼ 愛に行こう！



あいちの山里 & 離島

【作成】愛知県総務局総務部市町村課地域振興室

〒460-8501 名古屋市中区三の丸三丁目1番2号

電話 (052)954-6097(ダイヤルイン)